

## 人が二度笑いするメカニズム

1230495 中山萌夏

指導教員 那須清吾

### 研究背景

お笑い番組を見ると、一度見たことがあるのに、次に芸人が何を言うかわかっている状態であっても笑いが起きる、所謂二度笑いはなぜ起きるのか。特に漫才において二度笑いが起きるものと起きないものには何らかの差があると考えられる。このような二度笑いするお笑いには共通点があるのではないかと感じられた。

### 研究目的

人が漫才の内容を認知し、それが笑いににつながるメカニズムを解明する。そして、二度笑いが起こる漫才と、そうでない漫才には、どのような差があるのか明らかにする。

認知心理学などの学問によってそれが論理的に説明可能なのか否かを試み、実験により確認する。

### 研究方法

先行研究から二度笑いの論理モデルを導出し、自分自身により多数のお笑いで予備実験を行う。その後、論理モデルに含まれる構成要素を明らかにし、ウェブアンケート調査で検証を行った。

### 分析結果

芸人が不可解な発言をすることで聴衆がネガティブな刺激にさらされる事で緊張し、その後リバーサル理論に基づき覚醒度の変化の過程で緊張が緩和されることによって笑いが起こる。予備実験では、二度笑いが起きた漫才には共通して芸人(ボケ)のキャラクターに狂気的なものを感じ、所謂「やばいやつ」(広辞苑によれば危険であるさま)であること、芸人(ボケ)の主張が視聴者の思いと逆行していることで、ネガティブな刺激にさらされ緊張するという状態が続いていることであった。

しかし、アンケート実験からは、漫才を視聴した一回目から二回目の変化として、笑う程度が同じだった人が56%、下がった人が40%、上がった人が4%となり、6割の人が二度笑いすることが分かった。

### 考察・結論

アンケート調査で仮説を確認した結果、芸人(ボケ)の狂気性については予備実験と認識が同じであったが、予備調査から「ボケに対しやばい人という認知をしている事で不可解なボケの発言でネガティブな刺激にさらされ緊張するという状態が続いている」ことと合わせて二度笑いが起きるといふ仮説は6割程度の人で起きたことから、仮説が正しい可能性があることは分かった。しかし、確実であるとはまでは言えないことが明らかとなった。